



学生の挑戦

やれると信じて 今まで通り努力する

体育会ラグビー部主将 (CTB)
商学部マーケティング学科4年

なつ い ひ ろ き
夏井大樹さん



↑ 5月、伊勢原総合グラウンドにて

新型コロナウイルスの影響を受け、対外試合はもちろん部としての活動は一切中止となった。そんな状況の5月、ラグビー部主将の夏井大樹さんに伊勢原体育寮で話を聞いた。

「3月末以降は個人練習をしています。部員の4分の3程度は帰省しているので、LINE でみんなに練習メニューを渡し、やれることをやっている状況です」

2017年のリーグ戦1部へ昇格後、一昨年は7位、昨年は5位と、着実に結果を残してきた。「上昇」をスローガンに、今年はさらに上を目指しているが…。

「実戦を通してチームを作り上げていこうと思っていた春に一試合もできていないので不安はあります。でも、みんなでポジティブにとらえるようにして、僕は過去の試合を見ながらデータ分析したり、ウエイトトレーニングしたり、時間ができた今だからこそできる準備をしています」

昨年のリーグ戦は3勝4敗。一桁点差の敗戦が2試合あった。上を目指すために、僅差を勝ちきれぬしづきが今年は求められる。

「ディフェンス面が課題です。逆に強みはフォワード

とバックス一体となった広く展開するアタック。下級生からも意見を出しやすい雰囲気を作って、チーム全体でレベルアップしたいです。今年は大きい選手が少ないですが、地道に泥臭く戦っていきます」

全国から集まった仲間と、練習も生活も共にしながら築いた「信頼関係」。今こんな状況だからこそ、仲間との連携が力になる。

「チームのために各自ができることに取り組んでいこうと、みんなで連絡をとり合いながら気持ちを盛り立てています」

村田互監督も一人ひとりと電話で話したり、士気を高めるビデオを作って配信したり、部員達の心がラグビーから離れないように働きかけてくれているという。

主将として迎えた最終学年は、夢にも思わぬ事態となった。秋からのリーグ戦が開催されるか、現時点で確かなことはわからないが、「やれると信じて、今まで通り努力していく」。

「目標は全国大学選手権出場のリーグ戦3位以内。主将としては、嫌われてもいいので言うべきことは言って、プレーで引っ張っていきたいです」